



株式会社南紀白浜エアポート R7年度事業計画



南紀白浜エアポート R7年度事業計画

空港活性化 に関する計画

■ 目標旅客数:25.0万人

- 定期便(B738機・1日3往復の維持と拡大)に向けた航空需要の底上げ
 - ・ 地元からの航空需要の喚起(和歌山県と連携した地元向けプロモーション、北海道・東北エリアへの乗り継ぎ利用促進、空港イベント開催を通じた利用促進)
 - ・ ビジネス需要の獲得(ワーケーション推進、IoT企業誘致による持続的な安定需要の底上げ)
 - ・ 着地型旅行業を通じた地域の商品化および人事関連企業・旅行代理店との販売チャネルの強化

■ エアライン誘致の強化

- 定期便:4便化を目指した需要の底上げとリーズナブルな運賃の確保
- チャーター便:エアライン・旅行代理店への営業(遊覧飛行を含む)
- ビジネスジェット便:富裕層向けサービス拡充による受入環境の整備

■ 空港および地域における利便性の向上

- 受入体制の強化
 - ・ ターゲット顧客の利便性を向上させるための宿泊・交通・飲食・体験の横断的におもてなしの拡充(地域連携DMOの地域マーケティング・マネジメント)

南紀白浜エアポート R7年度事業計画

維持管理 に関する計画

■ 空港施設の安全を継続的に維持

➤ 日常の維持管理

- 日常点検、巡回点検、緊急点検(地震・台風等の天災発生直後に実施する点検)を適切に実施、検知された損傷を記録
- 補修、修繕が必要な箇所については、対応工法を検討した上で実施
- 教育・訓練を計画的に実施し、トラブル発生時に空港スタッフが迅速・的確に対応できるよう準備

➤ 更新工事の協議、遂行、現場管理

- 現時点で大規模な設備投資の予定はない。関係各所と協議、優先的に実施する工事種目・範囲を確定の上、速やかな工事手続きに着手

➤ 新技術の導入推進(空港DXの推進)

- 空港およびその周辺を舞台にした技術実証を要望、提案する企業と協働で新技術の実用化を目指す

南紀白浜エアポート R7年度事業計画

安全・保安 に関する計画

- 航空の安全及び空港の保安を維持・改善
 - セイフティ・セキュリティの両面において安全を確保
 - ・ 制限区域内における人の死傷、航空機損傷事故ゼロ
 - ・ 制限区域内への不法侵入事案発生件数ゼロ
 - 空港スタッフ一体となった安全・保安意識の増強
 - ・ 空港委員会の開催(年2回以上)
 - ・ 空港保安委員会の開催(年3回以上)
 - 3層の視点からのモニタリングにより、安全保安に関する業務品質を維持・改善
 - 教育・訓練を計画的に実施し、トラブル発生時に空港スタッフが迅速・的確に対応できるよう準備
 - 空港消防業務の維持・強化
 - ハザードを見極め、リスク評価し、改善・予防措置を実行